

意匠図、構造図、設備図の情報を統合し、施工に必要な詳細を示した「施工図」。この図面を作成する生産設計は建物の品質やコストに直結し、完成度を高める重要な役割を担う。生産設計の認知度向上や人材の獲得と育成を目的に、生産設計に携わる企業が集まり任意団体「建築生産設計協力会」が2024年7月に活動を始めた。中村務会長に設立の経緯や今後の展望を聞いた。

——協力を設立した狙いは。
「この1年の活動状況は。」

「施工図業界は50年ほど前、ゼネコンの施工図作成業務の代行から始まった。施工図は建物の品質やコスト、工期につながる重要な図面で、建設には欠かせないものだ。やりがいの大きい仕事だが、建築生産設計という職能の社会的認知度は十分と言えない。人材確保と育成が喫緊の課題となる中、各社の連携を緊密にし、業界の活性化や認知拡大に取り組みうと昨年7月に協力を立ち上げた」

時流自流

建築生産設計協力会会長 中村 務氏

2年日は足元固める活動に注力



掲載するなど、生産設計を知ってもらふ活動を積極的に展開してきた」
——設立2年目の取り組みは。
「足元を固める活動を行う。引き続き学校、学生へのアピールを最も重要な事業として取り組むとともに、1社でも多く会員を増やしたい。協力は何をやっていくのかという不安を払拭する活動を展開し、施工図業界で活躍する企業に安心して入ってもらいたい」

——具体的には。
「人材の育成や技術力の向上を目指し、会員企業の

若手社員を対象にした勉強会を開いている。ゼネコンの研修施設や現場見学を行い、若手の知見を広げる。業界のボトムアップ、発展に貢献する活動を推進していく。集まったことのメリットであり、こうした活動を通じて各社がヒントをもらい、成長に向けた新たな取り組みや自社の魅力向上につなげてほしい」

「現場ごとに生産設計を営む会社でJVを組成するケースはよくある。大規模な建築現場では施工図作成に100人ぐらい必要となる。協会の会員企業でJVを組むことで業務のスタート時点から結束感が生まれ、図面品質の向上などにつながる。ゼネコンや専門工事会社に対しても存在を

学生へのアピール、入会促す取り組み展開

アピールし応援いただき、一緒にいい建物づくりをしていきたい」
——今後の展望を。

「建築生産設計の職能や業務は単に施工図の作成だけでなく、コストや工期を見ながら図面を管理し完成形に持っていくマネジメントも期待されている。ゼネコンの協力会社として、図面に関するマネジメントを担える人材を育て輩出し、生産設計業務、施工図業界のステータスを上げていきたい。認知度を高めることで、将来的には建築生産設計に関わる資格制度の創設も見えてくるだろう」

「国内で施工図を書ける人が、どの地域に何人いるのか分からないのが実情だ。ゼネコン各社では協力会社数を把握しているが、重複している社もあり、実際に業務を行っている総数は把握できていない。建物づくりに関わることなので、生産設計の団体として把握したいと考えている」。